



# 第2期中原区区民会議 中間報告書 (概要版)

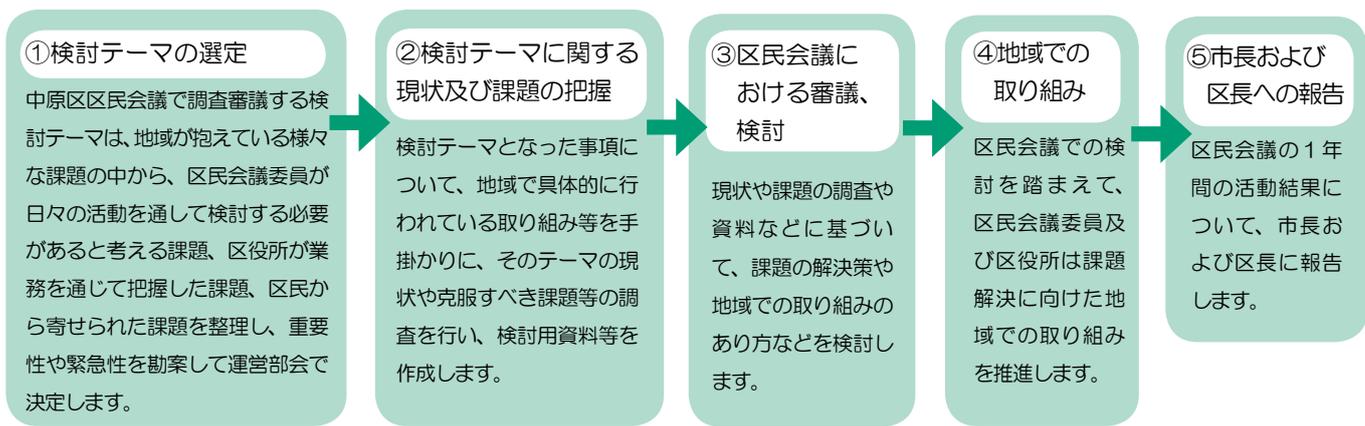
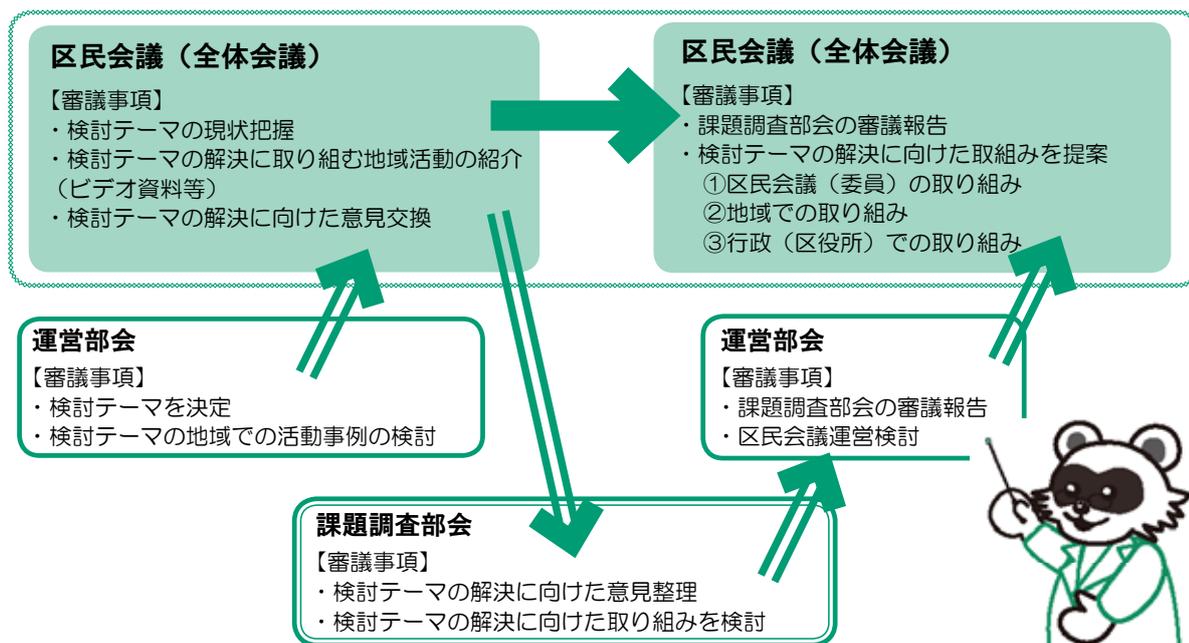


- 委員
- 大下 由美子
  - 川連 昌久
  - 佐野 愛子
  - 杉野 茂彦
  - 鈴木 眞智子
  - 竹井 斎
  - 辻 正人
  - 富岡 茂太郎
  - 内藤 幸彦
  - 芳賀 誠
  - 藤枝 重之
  - 藤嶋 とみ子
  - 本目 さよ
  - 松原 清一
  - 松本 玲子
  - 宮本 良彦
  - 村山 十九男
  - 矢野 和昭
  - 横川 郁子
  - 吉房 正三

■参与 (50音順)

- 川崎市議会議員
- 市古 映美 (共産党)
  - 潮田 智信 (民主党)
  - 大庭 裕子 (共産党)
  - 清水 勝利 (自民党)
  - 志村 勝 (公明党)
  - 立野 千秋 (民主党)
  - 原 修一 (自民党)
  - 東 正則 (民主党)
  - 松原 成文 (自民党)
  - 吉岡 俊祐 (公明党)
- 神奈川県議会議員
- 滝田 孝徳 (民主党・かながわクラブ)
  - 田島 信二 (自民党)
  - 徳安 久是 (ルネッサンス21)

■ 検討テーマ審議の流れ



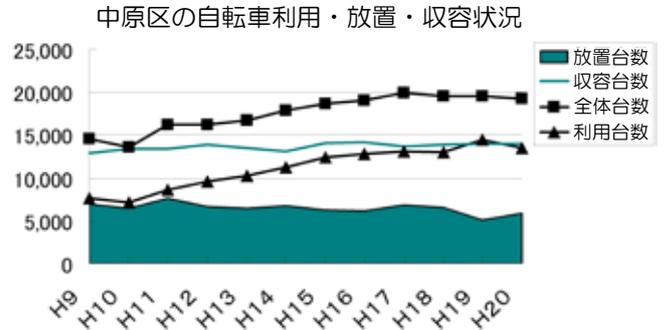
# 1

## 検討テーマ①「地域で取り組む放置自転車対策」

### (1) 現状及び課題の把握

中原区は地形が平坦であることから自転車の利用が多く、鉄道駅周辺の放置自転車が多く見られます。そのため歩行者の通行が妨げられたり、救急車などの緊急車両の進入に支障が生じるなど、大きな問題となっています。

現在、こうした現状の改善のため、地域、行政が連携して駐輪場利用の呼びかけや自転車利用者へのマナー向上の啓発活動により成果を上げていますが、小杉駅周辺の再開発事業などにより人口の増加が予想されるため、今後も継続的な取り組みが必要です。



▲ 自転車マナーの啓発ポスターを紹介する芳賀委員

### (2) 委員による意見交換

- PTA活動を有効に活用して、啓発活動していきたい。
- 放置自転車は、自動車の駐車違反と同じ取り扱いを考えたほうがよいのではないか。



▲ 放置自転車問題の解決に向け意見を述べる川連委員

- 放置禁止区域はかなり昔から指定されているにもかかわらず、理解されていない。
- 小学生がかいたマナーアップのポスターを放置自転車の前に張ったらどうか。
- モラル、マナーの問題は子どもたちからの教育が大事である。
- お祭りの際などにマナー啓発イベント、キャンペーンを行うのはよい方法だと思う。
- 学校、町内会・自治会で徹底、促進するのが一番よいと思う。
- 健康のために歩くといったキャンペーンをいかに区民会議としてやっていくかが、今我々が一番すぐにできることである。まず行動してみる事が大切である。
- 健康のためにも歩いて出かけることは必要である。そういう運動も必要ではないか。

### (3) 放置自転車問題の解決に向けた取り組み事項



		取り組み内容	
取 り 組 み	区 民 会 議 の 地 域 ・ 区 民 ・	自転車利用者に対するマナー・モラル啓発活動	(1) 町内会・自治会をはじめとした地域によるマナー・モラル啓発活動を促進 (2) 区民会議委員の出身団体におけるマナー・モラル啓発活動の促進 (3) 若い世代に向けた啓発活動の実施
		駅周辺の商店街における放置自転車対策の取り組み促進	
		地域における放置自転車対策の取り組みとの連携	
取 り 組 み	行 政 の	小杉駅周辺再開発地区をモデル地区として、駐輪場への的確な誘導と利用促進キャンペーンの実施を検討	
		小杉駅周辺再開発地区をモデル地区として、自転車利用者動向調査の実施を検討	

## (4) 地域の取り組み事例

### 小杉町2丁目町内会



子ども会保護者と自転車利用  
マナー勉強会を開催

小杉町二丁目町内会では、地域における自転車の交通事故防止と安全利用の推進を図るために、自転車利用者の交通ルール遵守とマナー向上に関する様々な活動を行ってきました。平成20年12月に、マナー向上を呼びかける大型ポスター8基を武蔵小杉駅近くの民間集合住宅の外周フェンスに設置して、通勤通学で行きかう人々に自転車のマナー向上を広く呼びかけています。



自転車利用時のマナーやルールに関するイラストや標語が書かれています

### 区PTA協議会と 自転車と共生するまちづくり委員会



区内における放置自転車の問題  
について説明する芳賀委員

中原区PTA協議会では、放置自転車問題について理解を深めるために同協議会の会合で説明会を実施しました。説明会の講師は、放置自転車問題に関して地域で様々な活動をしている自転車と共生するまちづくり委員会の委員長である芳賀委員が行いました。この説明会では、放置自転車問題の現状や自転車利用者のマナーについても話がおよび普段何気なく使っている自転車について考えるきっかけとなったようです。

この説明会をきっかけに、今後も各学校からの依頼や要望があれば応じていく予定です。

### 丸子地区商店街連合会

丸子地区商店街連合会では、同連合会の商業活動の中心にある東急東横線新丸子駅周辺に放置された自転車に警告チラシを貼る独自の放置自転車対策の取り組みを始めました。取り組みを推進しているのは同連合会会長であり区民会議委員でもある川連委員です。川連委員は新丸子駅周辺の歩道に放置された自転車が歩行者の通行の妨げになっていることに以前から気がかけていましたが、区民会議で地域のボランティア活動として放置自転車対策に取り組んでいる人たちの姿を見て、自らも活動を行おうと思立ちました。

活動は、平成20年12月から1週間に1回程度、平成21年度3月末までに13回行いました。駅前の歩道など交通の妨げになっているところなどを重点的に放置された自転車に警告札を貼り、市の放置自転車撤去活動と時機をあわせることにより、警告の効果を高める工夫をしています。



■実施日数 平成20年12月(4回)  
平成21年1月(1回)、2月(4回)、  
3月(4回) いずれも午後3時半~4時

■場 所 新丸子駅周辺

■参加者 丸子地区商店街連合会、  
新丸子駅周辺の商店街会長及び役員6名

■活動内容

- ①新丸子駅周辺の活動区域に啓発用のぼり旗5本(地域振興課貸与物品)を設置する。
- ②対象区域に放置された自転車に、警告チラシをホッチキスで貼付する。

※本活動は自転車放置の抑止効果を高めるために、試行的に放置自転車撤去活動と連携して実施しています

活動日当日と活動後(翌日)の様子いずれも午後4時頃撮影



▲12月11日(活動日当日)  
の状況

▲12月12日(活動日翌日)の状況

## (1) 現状及び課題の把握

### ■ゲスト講義「コミュニティを考える視点」



法政大学大学院政策創造研究科  
教授 武藤 博己氏

(川崎市都市型コミュニティ検討委員会委員長)

- 地域におけるコミュニケーションの場所（地域のおしゃべりの場、昔の井戸端会議のような場）が減ってきている。

## (2) 地域の活動事例

### 井田協友会



▲井田杉山町公園

地区全体のまちづくりの視点からマンション開発業者等との調整をはかるために「井田みすぎ地区まちづくり協議会」を立ち上げるなど、自主的なまちづくりに取り組んでいます。

#### ■活動の特徴

井田協友会は、住民間のまとまりや連帯意識が強いという特徴があり、この特徴は現在も受け継がれ、井田杉山町公園を地域による自主的な維持・管理で清掃を行ったり、

- 地域活動の人材には、すでに活動している人、まだ活動に参加していない人に分けられる。新しい人を迎えるためには、気軽に参加できるお祭りなどもきっかけとなりえる。
- コミュニティの力を高めるには、人と人との絆を強めることが必要である。また、地域の問題（例えば、防犯など）を共有することができるとコミュニティ力の強化に繋がりやすい。さらに、「熱意」も必要である。「熱意」は人から人へと伝播されるので、コミュニティの力を継続していくことができる。

### 特定非営利活動法人グループリビング川崎 (COCO 宮内)

#### ■活動の特徴

グループリビング「COCO宮内」の入居者の生活支援・イベント開催の支援、入居者と地域の人々との交流の場、アトリエ21（趣味の教室）の運営を主な活動としています。また、地域の憩いの場として「カフェBE BORN」、宮内こども教室、デイサービスによる「パワーリハビリテーション」、「ピアノ教室」とも協力して活動しています。



「COCO」へ行く

### 地域ふれあい“つきやまサロン”

#### ■活動の特徴

つきやまサロンの様々な自主活動（太極拳、絵手紙、エコ手芸、折り紙アート、小林グライダーなど）は講師も生徒も同じ地域の人々です。地域の人々がそれぞれの得意分野を活かして講師を務めて相互に教えあっています。また、平成19年度には、介護予防事業のひとつの「すこやか活動」にも認定されるなど、地域団体と連携を深めながら活動を行っています。



▶小林グライダー教室

### 委員からの主な意見

- コミュニティには、できるだけ小さな単位（地域）でいろいろな意見が言い合えるところというイメージがある。
  - 地域のコミュニティを考える上で大事なものは、①人材、②場所、③資金、④時機（タイミング）、⑤情報である。
  - 若い人の地域活動への参加を、社会として必要と考えるならば、社会としてもサポートする必要があるのでは。
  - 具体的な地域の問題（災害発生）について課題意識が共有化できれば、若い人の地域参加も進むのでは。
  - 地域活動は「情熱」で99%決まるといってもいい。
- 会議での議論は、平成21年度に開催予定の課題調査部会に引き継いで、課題解決に向けた具体的な取り組みについて検討を行うこととなりました。